

# H-IIAロケットの開発に関する 今後の取組みについて

平成16年6月16日

文部科学省

# 今後の取組みについて

宇宙開発委員会調査部会および特別会合の報告書を踏まえて、今後のH-Aロケットの開発は、技術的な面のみならず、体制的な面からもロケット全体の信頼性向上に向けた取組みを一層強化する。

## H-Aロケット標準型の民間移管への取組み

- H-Aロケット標準型の民間移管については、製造責任を一元的に負うプライム制への移行を着実に進める。
- プライム化までの補完措置として、JAXAが行うH-A再点検や設計見直しにおいて、あるいは既に製造中のH-Aロケットについても今後の製造工程において、三菱重工業(株)がロケット全体の信頼性を確認することにより一層の信頼性向上を図る。
- JAXAは民間移管に向けてH-Aロケットの信頼性向上のための開発を強化するとともに、第三者的な冷静な目で信頼性を確保する独立した組織を設置し、信頼性確保の体制を強化する。
- 民間移管後は、JAXAは、「自律性確保に必要なロケットのキー技術(液体ロケットエンジン、大型固体ロケット及び誘導制御システム)」を世界最高水準に維持するとともに、これらに不可欠な部品等の基盤技術の維持・向上に資する研究開発活動を継続的に実施していく。

## H-Aロケット能力向上型開発への取組み

- H-IIAロケット技術を共通化し、活用・発展させたH-IIAロケット能力向上型については、開発段階においてもプライム制を導入し、JAXAは基本設計に責任を負い、製造に直結する詳細設計はプライム製造企業が責任を負う体制で現在、開発を実施中。

## H-Aロケット標準型の民間移管

参考

### ➤ 経緯

#### ✓平成14年6月

総合科学技術会議（1）及び宇宙開発委員会（2）において、H-IIAロケット標準型を我が国の基幹ロケットと位置づけ、優先使用するとともに、民間に移管することが決定された。

#### ✓平成14年8月28日

文部科学省は、「H-IIAロケット民営化作業チーム」（平成15年4月文部科学省とりまとめ）における検討の中間とりまとめを定め、民間移管の条件、官民の分担、移管先企業の選定等に係る基本方針が設定された。

#### ✓平成14年11月20日

宇宙開発事業団（当時）は、移管先企業の申請受付、選定基準への適合の評価を行った結果、三菱重工を移管先企業の候補とすることを決定し、宇宙開発委員会に報告した。

〔平成14年10月 プライム会社の申請受付／審査  
平成14年11月 プライム会社の選定〕

#### ✓平成15年2月7日

宇宙開発事業団（当時）と三菱重工は、H-IIA標準型を用いた打上げサービス事業の実施に係る基本協定を締結した。

#### ✓平成15年4月22日

文部科学省は、「H-IIAロケット民営化作業チーム」における検討の最終報告書を取りまとめた。

現在、これをもとに、JAXAと三菱重工業株間で連絡会を設置し、詳細調整を実施中。

1: 「今後の宇宙開発利用に関する取り組みの基本について」

2: 「我が国の宇宙開発利用の目標と方向性」

## H-Aロケット能力向上型の開発

参考

### ➤経緯

- ✓平成13年度：  
H-Aロケット標準型試験機打上げに成功し、運用開始。
- ✓平成14年6月：我が国の宇宙開発利用の目標と方向性（宇宙開発委員会）  
『H-A標準型以上の能力を持つ輸送系（H-A増強型）を開発する場合には、H-A標準型を基本に民間に主体性を持たせた官民共同開発を行う。そのため、官民の関係者からなる作業チームを文部科学省に設置し検討を行う。』
- ✓平成15年5月：H-A民営化作業チーム最終報告  
H-A民営化作業チーム最終報告書にてH-Aロケット輸送能力向上に際しての開発の進め方について検討結果を宇宙開発委員会へ報告
- ✓平成15年4月～6月：  
官民合同活動によるH-Aロケットの能力向上に関する検討結果について宇宙開発委員会計画・評価部会にて評価を受け、平成19年度に試験機を打ち上げることを目標に開発を進めることは適切であると判断された。
- ✓平成15年10月：  
総合科学技術会議は、平成16年度概算要求に係る独立行政法人の主要業務に対する見解の中で、H-IIA能力向上型については以下の見解を出した。  
当面のニーズは宇宙ステーション用の補給機（HTV）であるが、世界市場を睨んだ積極的な推進が必要である。  
ある程度、国主導の開発が軌道に乗った後は、民間移転の方向で検討していくことが必要である。 3

## 今後の宇宙開発利用に関する取り組みの基本について (平成14年6月総合科学技術会議)

### 我が国の宇宙開発利用の目標と方針・・・自律性の確保

我が国の国際的地位、存立基盤を確保するため、諸外国における宇宙開発利用の状況を踏まえつつ、我が国は人工衛星と宇宙輸送システムを必要な時に、**独自に宇宙空間に打ち上げる能力を将来にわたって維持する。**』

#### ➤宇宙輸送システムのあり方

- ✓ H-ⅡAロケットを我が国の基幹ロケットとして定常的に運用
- ✓ H-ⅡAロケット標準型については、徹底した信頼性の向上に努め、民間へ移管する。
- ✓ H-ⅡAロケット標準型以上の能力を持つ輸送系の開発 (H-ⅡAロケット能力向上型)を行う場合には、政府の支援の下、**民間主導で開発する方向で検討する。**
- ✓ H-ⅡAロケットにトラブルなどが生じた際に代替する方策を講じることが求められる。